

○あらためてチャレンジ、民進党

国会が閉会して、地元に戻っています。安倍内閣の支持率は落ちていますが、「民進党は、いったい何をしようの？この大事な時に、大丈夫かな？相手を批判しただけではあかん。何をしたいのかはつきりせんとかかん。」という厳しいお叱りを受けています。

「民進党が何をしたいのかわからん。」と言う声に応えるためには、早急に、私達民進党としてのしっかりした主体性を確立することです。

私は、憲法は、自衛隊を明記するかどうかではなく、自衛隊の活動の限界を明示すべきだと思っています。専守防衛の原則を憲法に書くこと。海外での国際貢献活動では、国連の旗のもと、軍事的活動を最小限に抑え、具体的な基準を時の政府の裁量ではなく基本法で明示することです。具体的な憲法改正のテーマとしては、首相の衆議院解散権、地方自治、環境権、人権の中でもプライバシー権などから、憲法審査会でテーマごとに各党のコンセンサスを作り、国民投票にかける。その上で、憲法9条の論議に入っていく手順がいいと思っています。原発は、これまで民進党が主張してきた通り「新しい原発は作らない。30年代に原発ゼロを目指すこと」です。これを達成するために、具体的な道筋を詰めて、工程表を国民に示すことが必要です。

一番大切な政策は、国民の新しいライフスタイルに根差した、民進党の経済社会政策です。私は、日本の急激な人口減少を、そのまま、仕方ないと見過ごしてはダメだと思っています。安心感に根差した中で、子供を育てる喜びと将来への希望が日本の社会から湧き出てくる。その為にも、人への投資を第一に考える。前提になる社会変革の目標は、日本が戦後の高度成長社会の基本であった「発展途上国型社会」から抜け出し、人の幸せや真の豊かさを実現する「成熟型社会」へ転換していく道筋をつけることです。

グローバル化の中で、国際企業は、海外に投資を進め利益を上げて、さらに、海外での活動を加速させます。しかし、これは、日本国内の国民生活の豊かさには結びついていません。株での儲けは一時的な泡です。逆に国内では、非正規労働が40%を超え、格差が広がっています。追い詰められていくような過酷な労働環境が、ブラック企業を生み出し、職場に人間性が失われていく現実があります。私達の使命は、国民の真の豊かさに結びつく資金の循環を日本国内に作ることです。

同時に、人を尊重する職場環境を保障します。待機児童の解消はもちろんのこと、幼児期から大学までの授業料無償化は、若い世代の可処分所得を広げ、賃金増と同じ効果をもたらします。「出世払い奨学金」との組み合わせで、社会に一旦出た人の人生再設計（リカレント）教育の機会も増えます。労働分野で、時短や育児休暇、最低賃金の引き上げを実現すれば、子育ての基本条件を整えるだけでなく、働くことと同時に職場以外の自分の世界を楽しめる成熟型社会を実現していくことになります。職場以外の世界が増えることは、国内に新しい市場を起こすことにも繋がります。こうした社会変革の種は、私達の中に沢山あります。

○北朝鮮問題、グアテマラ、キューバに解決のヒントを求めて

北朝鮮の問題を話し合う国際会議が、今年はグアテマラで開かれました。何故、北朝鮮問題がグアテマラなのか？去年は韓国で開かれた国際会議で、グアテマラの議員達から「北朝鮮を制裁することだけに目を奪われていないで、中の国民に注目すべきだ。」と提案がありました。中南米の国々は、軍事独裁政権を経験し、国民はそれを克服するために、国内での民主化運動を海外の勢力と組んで巧みに戦ってきた。彼らの歴史は、多くの示唆に富んでいました。

また、キューバは、歴史的に北朝鮮の友好国です。これを崩せるきっかけになればと、日韓の議員でキューバ訪問を計画しました。しかし、残念なことに韓国議員の公用ビザはとれず、キューバでは、北朝鮮と日韓の仲介をすることも考えて欲しいと頼むことが精いっぱいでした。

○ゲリラ豪雨に思い切った対策を

集中豪雨で未曾有の災害が続いています。局地的でこれまでの想定を超える雨量を見ると、既存の防災計画の抜本的な見直しを政府に求める必要があると思います。

山が崩れる危険性は砂防指定などで周知するだけでなく、安全な地域への村落ごとの移住なども視野に入れる必要が出てきたと思います。局地豪雨は、特に中小河川を氾濫させます。各自治体では、市区町村のレベルだけでなく、コミュニティレベルで防災計画を立てることが大事です。